

3匹の蛇 Three snakes

Abstract

We researched characters, the best invention which human being have made up, and made one work by using many kinds of expressions.

And we would like to prove that we can make great things by cooperating with all members and piling each thought of us.

●「仮名」

文字を持たなかった日本人は中国から漢字が伝えられると、漢字の音を借りて自分たちの言葉を書き記しました。これが「仮名」の起りです。仮名は漢字の音を用いたため、一つの音にいくつもの漢字が当てられました。明治時代になると1音につき1字が決められました。これが現代使われている「平仮名」です。仮名には「変体仮名」と「連綿」という表現技法があります。前述の平仮名以外の仮名を変体仮名と呼びます。これを用いることで作品の中に同じ文字が出てきても、変化を付けることができます。「連綿」とは、二字や三字あるいは多字数を続けて書くことをいいます。文字と文字を結ぶ線に変化を付けることで様々な表現が可能になります。

●「料紙」

美術的要素を含んだ紙に着目し「料紙」制作に取り組みました。

日本に紙を作る技術が伝えられたのは奈良時代です。当時紙は貴重で、重要な公文書などに使われていました。料紙は仏教文化と共に写経用紙として大きく発展しました。平安時代には仮名文字体系ができあがり、女手と呼ばれた仮名は、女性達の間で使用されていました。この頃は手紙が数々の場面で使われ、恋文や贈り物に添える手紙、見舞いの手紙などに料紙が使われました。平安時代後期、中国製の紙は急速に姿を消しました。またこの頃には料紙装飾に一段と工夫が凝らされ、金・銀・泥・群青・緑青などの顔料で紙面に下絵を施すようになりました。さらに切り継ぎ・重ね継ぎなどの継ぎ紙が作られ、見事な料紙工芸が開花します。現在では平安時代と同じような料紙が研究制作されています。

●「篆書」

自分の名前を現代ではあまり使われていない漢字で書きたかったので、篆書を選びました。「篆書」というのは、中国殷時代に使われていた文字です。「篆書」は横画が水平に書かれており、文字全体は縦長です。また、文字は正面向きで、左右対称やそれに準ずる形になっています。幾何学図形的であるこの文字に、静止的な一面を加えることによって、古代的な荘重さや威厳が表現されています。篆書は主に3種類(甲骨・金文・小篆)があります。甲骨は現存する最古の文字であり、殷時代後期に王が政治を占う為に用いました。この文字は約三千字あり、19世紀末に、中国の西北郊外、小屯という村を中心とした殷時代遺跡で発掘されました。金文は殷・西周時代のもので、青銅器に鋳込まれたり、刻まれたりしたものです。小篆は秦の始皇帝によって統一された文字で、現代でも印鑑などに見られます。

●まとめ

前期では三人が上記のようにそれぞれ違うものを調べたり作ったりしていました。後期はそれぞれの探求をさらに発展させ、一つの作品にしました。仮名表現・水墨画・篆刻で合体させ、「三匹の蛇」という題で一つの作品に仕上げ、発表することができました。紙や墨また文字の文化に触れ、詳しく調べることにより自分たちのルーツを探ることもつながりました。また合作することで、お互いの呼吸を合わせる楽しさや達成感も味わえることができました。